

カリフォルニアアシカの下顎骨骨折整復

○和田 夏海¹⁾, 加藤 恭子²⁾, 高橋 真由美³⁾, 島津 貴咲⁴⁾, 近藤 圭佑¹⁾, 島津 徳人⁵⁾
(¹⁾ マリンワールド海の中道, ²⁾ 東京歯科大学 口腔腫瘍外科学講座, ³⁾ 医療法人社団八啓会
長町南歯科医院, ⁴⁾ 日本歯科大学 小児歯科学講座, ⁵⁾ 麻布大学 生命・環境科学部)

マリンワールド海の中道において、下顎骨を開放骨折したカリフォルニアアシカの整復処置を実施し、良好な経過を辿ったため報告する。症例はカリフォルニアアシカの雌（愛称カリン、国内血統登録番号 927、当時 10 歳）である。2022 年 9 月 10 日に食欲不振のためステンレス製の保定檻を使用して検査・処置を実施した際、檻の支柱に強く噛みついたことにより、右下顎を開放骨折した。そのため、第 23 病日に麻酔下で下顎骨折整復術（プレート固定術）を実施した。導入から覚醒までに要した時間は 3 時間 2 分であった。術後は鎮痛剤・抗生剤の投薬や運動・入水制限を行いながら術部管理を行った。第 45 病日で抜糸を行い、制限を徐々に解除しながら、第 62 病日にショーに復帰した。その後は定期的なレントゲン撮影のみ実施し、骨癒合やプレートの位置確認を行い良好に経過した。しかし、第 356 病日に右下顎に皮膚の膨隆を確認したためレントゲン撮影を行ったところ、プレートを固定していたピンが 1 か所脱落しており、プレートが設置位置から下方にずれてしまっていた。そのため、第 393 病日にプレート抜去術を実施した。皮膚膨隆部は患部からの瘻管となっていたため、洗浄処置を行った。導入から覚醒までに要した時間は 2 時間 23 分であった。術後は鎮痛剤・抗生剤の投薬や運動・入水制限を行いながら術部管理を行った。制限は徐々に解除し、第 403 病日でショーに復帰し、抜糸は第 415 日病日で実施した。その後は問題なく 2024 年 1 月現在まで経過している。以上のことから、当症例における骨折部位ではプレート固定術が有効であった。当館では現在、当症例での下顎骨骨折を受けて、保定檻使用方法の見直しや、鎮静下での検査処置の実施を検討している。